

「栃高の日」新聞 第15号

発行者：校長 大橋芳樹 発行日：平成29年6月16日（金）

** 6月生まれの人・著名人の名言 **

<本田圭佑> (1986年6月13日～)
 1986年、大阪府摂津市に生まれる。小学2年生のときに地元
 の摂津FCに入団してサッカーを始める。中学入学後、ガンバ大
 阪ジュニアユースに所属するもユースチームへの昇格ができ
 ず、石川県星稜高校へ進学。高校卒業後に「オファーがあれば
 海外クラブへの移籍を認める」という条件で名古屋グランパス
 とプロ契約を結び、2005年にはU-20日本代表として招集、翌
 年にはA代表にも飛び級で招集される。2008年にオランダの
 VVVフェンローへ移籍、2010年からはロシアの強豪CSKAモ
 スクワに所属。2012年、イタリア・セリエAの強豪SSラツィ
 オへの移籍が取り沙汰されたが、高額な移籍金がネックとなり
 破談。2013年12月、イタリアセリエA、ACミランへの移籍
 が発表され、2014年1月に自ら希望した背番号「10番」でセ
 リエAデビューを果たす。

世界一になるには

世界一の努力が必要だ。

俺ってすごくポジティブな性格だけど、裏を返せば、実はすごく不安な性格なんです。

不安だから努力しようと思う。

簡単に言えば強がっているんですよ。

俺の人生は挫折の連続なんです。

でもそこからはい上がろうとして、

未知の世界を知ることもある。

挫折は過程、

最後に成功すれば挫折は過程に変わる。

だから成功するまで諦めないだけ。

自分の夢、そんなに簡単に

諦められるかって話でしょ。

リスクのない人生なんて、

逆にリスクだ。

僕の人生なんてリスクそのものなんで。

極端に言うと、僕の場合、

無理をして先に人格を作っちゃうんですよ。

ヒーローとしての人格を作って、

普段からそう振る舞うようにする。

それを続けていたら、

自分の本物と重なるんですよ。

作った人格が、

本当の人格になるんです。

そうしたらほんまにカッコイイ

本田圭佑ができあがるんですよ。

だから、一日一日が

本当に大切になってくるんです。

※「ビッグマウス」で知られる本田圭佑ですが、意外に気が小さく、子どもに優しく、親友の長友佑都などの前では、お茶目な面も見せるそうです。



** 数にまつわる話し③ <婚約数> **

「数にまつわる話し」の第3弾は、「婚約数 (betrothed numbers)」です。「婚約数」とは「異なる2つの自然数の組で、1と自分自身を除いた約数の和が、互いに他方と等しくなるような数」をいいます。
 婚約数の組を小さい順に列記してみると、(48, 75)、(140, 195)、(1050, 1925)、(1575, 1648)、(2024, 2295)、(5775, 6128)、(8892, 16587)、(9504, 20735)、(62744, 75495)、(186615, 206504)…となります。
 最小の婚約数の組は (48, 75) と2番目に小さい婚約数の組 (140, 195) について検証してみましょう。まず、最小の婚約数の組 (48, 75) の検証です。48の約数は、1, 2, 3, 4, 6, 8, 12, 16, 24, 48 で、1と自分自身を除いた約数の和は 75 となります。一方、75の約数は、1, 3, 5, 15, 25, 75 で、1と自分自身を除いた約数の和は 48 となります。したがって、48と75は「婚約数」ということとなります。次に、2番目に小さい婚約数の組 (140, 195) の検証です。140の約数は、1, 2, 4, 5, 7, 10, 14, 20, 28, 35, 70, 140 で、1と自分自身を除いた約数の和は 195 となります。一方、195の約数は、1, 3, 5, 13, 15, 39, 65, 195 で、1と自分自身を除いた約数の和は 140 となります。したがって、140と195は「婚約数」ということとなります。
 現在までに知られている婚約数の組はすべて偶数と奇数の組であり、偶数同士または奇数同士の婚約数の組は存在するのか、また、婚約数の組は無数に存在するのか、などは数学上の未解決問題となっています。

🌸🌸 「栃高スポーツ祭」結果発表! 🌸🌸

去る5月31日(水)、栃木市の総合運動公園を一日借り切って「県民の日記念栃高スポーツ祭」が開催されました。総合優勝は2年5組で、2年生の総合優勝は久しぶりとのことでした。職員チームは残念ながら全種目初戦敗退でした。

<ソフトボール>

優勝	準優勝	3位	
2年5組	2年6組	2年2組	1年3組

<バレーボール>

優勝	準優勝	3位	
3年6組	3年4組	2年1組	2年2組

<バスケットボール>

優勝	準優勝	3位	
3年3組	2年1組	3年4組	2年6組

<テニス>

優勝	準優勝	3位	
3年5組	2年3組	2年5組	1年4組

<サッカー>

優勝	準優勝	3位	
3年6組	1年2組	3年2組	2年6組

<栃高リレー>

優勝	準優勝	3位	4位	5位
3年5組	2年5組	3年2組	3年3組	2年1組

<総合>

優勝	準優勝	3位	4位	5位
2年5組	3年6組	3年4組	3年5組	3年3組



🌸🌸 栃木県の成り立ちについて 🌸🌸

6月15日(木)は「県民の日」でした。「県民の日」にちなみ、栃木県の成り立ちを調べてみました。

1871年8月29日(明治4年旧暦7月14日) 廃藩置県
 同年12月25日(旧暦11月14日) 下野国北部に宇都宮県が、下野国南部に上野国南東部を加えて栃木県が設置された
 ○宇都宮県(県庁所在地：河内郡宇都宮)
 下野国のうち：河内郡、塩谷郡、那須郡、芳賀郡
 ○栃木県(県庁所在地：都賀郡栃木)
 下野国のうち：都賀郡、寒川郡、安蘇郡、足利郡、梁田郡
 上野国のうち：山田郡、新田郡、邑楽郡

1873年(明治6年)6月15日 宇都宮県と栃木県が合併して今日の栃木県が成立した(県庁は栃木)<「県民の日」の由来>
 1876年(明治9年) 上野国内3郡が群馬県の一部となり、ほぼ現在と同じ県域となる
 1884年(明治17年) 県庁が宇都宮に移された

「栃高の日」は「とことんチャレンジ」

6月の「栃高の日」は、私は
 【 】
 にチャレンジします!
 *【 】の中に自分で選んだものを書き入れよう!

チャレンジ満足度 [5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1]

*一日を振り返って、チャレンジ満足度を5段階で自己評価しよう!

「本屋大賞」特集

若者の活字離れに拍車がかかり、本が売れない時代といわれています。そんな出版界の苦境のなかでも本を売る大きな機会であるはずの直木賞で、2002年上半期 第127回の受賞作がゼロだったことに憤り、本と読者を最も知る立場にいる書店員が売れる本を作ることによって出版業界を現場から盛り上げていけないかと考えた杉江由次（本の雑誌社・営業担当）らによって2004年に「売り場からベストセラーをつくる！」を合言葉に「本屋大賞」が設立されました。選考方法は、(1) 一次投票で一人3作品を選んで投票、(2) 一次投票の集計結果、上位10作品をノミネート本として発表、(3) 二次投票はノミネート作品をすべて読んだ上で、全作品に感想コメントを書き、ベスト3に順位をつけて投票、(4) 二次投票の集計結果（投票の得点換算は、1位=3点、2位=2点、3位=1.5点）により大賞作品を決定、となります。大賞受賞者には正賞としてクリスタルトロフィーが、副賞として10万円分の図書カードが授与されます。映画化・ドラマ化された作品も多くあります。直木賞への批判から設立された「本屋大賞」ですが、本年の大賞受賞作である『蜜蜂と遠雷』恩田陸（幻冬舎）が2016年下半期第156回直木賞とW受賞となり、大きな話題となりました。2004年の第1回から本年の第14回までの大賞から5位までの受賞作を示します。

<2004年本屋大賞（第1回）>

- 大賞：『博士の愛した数式』小川洋子（新潮社）
 2位：『クライマーズ・ハイ』横山秀夫（文藝春秋）
 3位：『アヒルと鴨のコインロッカー』伊坂幸太郎（東京創元社）
 4位：『永遠の出口』森絵都（集英社）
 5位：『重カピエロ』伊坂幸太郎（新潮社）

<2005年本屋大賞（第2回）>

- 大賞：『夜のピクニック』恩田陸（新潮社）
 2位：『明日の記憶』荻原浩（光文社）
 3位：『家守綺譚』梨木香歩（新潮社）
 4位：『袋小路の男』絲山秋子（講談社）
 5位：『チルドレン』伊坂幸太郎（講談社）



<2006年本屋大賞（第3回）>

- 大賞：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』
 リリー・フランキー（扶桑社）
 2位：『サウスパウンド』奥田英朗（角川書店）
 3位：『死神の精度』伊坂幸太郎（文藝春秋）
 4位：『容疑者Xの献身』東野圭吾（文藝春秋）
 5位：『その日のまえに』重松清（文藝春秋）



<2007年本屋大賞（第4回）>

- 大賞：『一瞬の風になれ』佐藤多佳子（講談社）
 2位：『夜は短し歩けよ乙女』森見登美彦（角川書店）
 3位：『風が強く吹いている』三浦しをん（新潮社）
 4位：『終末のフール』伊坂幸太郎（集英社）
 5位：『図書館戦争』有川浩（メディアワークス）



<2008年本屋大賞（第5回）>

- 大賞：『ゴールデンランパー』伊坂幸太郎（新潮社）
 2位：『サクリフェイス』近藤史恵（新潮社）
 3位『有頂天家族』森見登美彦（幻冬舎）
 4位『悪人』吉田修一（朝日新聞社）
 5位：『映画篇』金城一紀（集英社）



<2009年本屋大賞（第6回）>

- 大賞：『告白』湊かなえ（双葉社）
 2位：『のぼうの城』和田竜（小学館）
 3位：『ジョーカー・ゲーム』柳広司（角川書店）
 4位：『テンバースト（上）』池上永一（角川書店）
 5位：『ボックス！』百田尚樹（太田出版）



<2010年本屋大賞（第7回）>

- 大賞：『天地明察』沖方丁（角川書店）
 2位：『神様のカルテ』夏川草介（小学館）
 3位：『横道世之介』吉田修一（毎日新聞社）
 4位：『神去なあな日常』三浦しをん（徳間書店）
 5位：『猫を抱いて象と泳ぐ』小川洋子（文藝春秋）



<2011年本屋大賞（第8回）>

- 大賞：『謎解きはディナーのあとで』東川篤哉（小学館）
 2位：『ふがいない僕は空を見た』窪美澄（新潮社）
 3位：『ペンギン・ハイウェイ』森見登美彦（角川書店）
 4位：『锚を上げよ』百田尚樹（講談社）
 5位：『シューマンの指』奥泉光（講談社）



<2012年本屋大賞（第9回）>

- 大賞：『舟を編む』三浦しをん（光文社）
 2位：『ジェノサイド』高野和明（角川書店）
 3位：『ピエタ』大島真寿美（ポプラ社）
 4位：『くちびるに歌を』中田永一（小学館）
 5位：『人質の朗読会』小川洋子（中央公論新社）



<2013年本屋大賞（第10回）>

- 大賞：『海賊とよばれた男』百田尚樹（講談社）
 2位：『64』横山秀夫（文藝春秋）
 3位：『楽園のカンヴァス』原田マハ（新潮社）
 4位：『きみはいい子』中脇初枝（ポプラ社）
 5位：『ふくわらい』西加奈子（朝日新聞出版）



<2014年本屋大賞（第11回）>

- 大賞：『村上海賊の娘』和田竜（新潮社）
 2位：『昨夜のカレー、明日のパン』木皿泉（河出書房新社）
 3位：『島はぼくらと』辻村深月（講談社）
 4位：『さようなら、オレンジ』岩城けい（筑摩書房）
 5位：『とっぴんぼらりの風太郎』万城目学（文藝春秋）

<2015年本屋大賞（第12回）>

- 大賞：『鹿の王』上橋菜穂子（KADOKAWA 角川書店）
 2位：『サラバ！』西加奈子（小学館）
 3位：『ハケンアニメ！』辻村深月（マガジンハウス）
 4位：『本屋さんのダイアナ』柚木麻子（新潮社）
 5位：『土漠の花』月村了衛（幻冬舎）



<2016年本屋大賞（第13回）>

- 大賞：『羊と鋼の森』宮下奈都（文藝春秋）
 2位：『君の臍臓をたべたい』住野よる（双葉社）
 3位：『世界の果てのこどもたち』中脇初枝（講談社）
 4位：『永い言い訳』西川美和（文藝春秋）
 5位：『朝が来る』辻村深月（文藝春秋）



<2017年本屋大賞（第14回）>

- 大賞：『蜜蜂と遠雷』恩田陸（幻冬舎）
 2位：『みかづき』森絵都（集英社） 331点
 3位：『罪の声』塩田武士（講談社）
 4位：『ツバキ文具店』小川糸（幻冬舎）
 5位：『桜風堂ものがたり』村山早紀（PHP研究所）

